

## アフリカマイマイの防除

アフリカマイマイは、沖縄県において1930年代に人為的に持ち込まれた南アフリカ原産の大型陸生貝類の一種であり、1945年以降は野外でも定着し沖縄本島をはじめ宮古、八重山群島に分布を拡大しました。



本種はそ菜類をはじめとする農作物に著しい被害を与えるだけでなく、広東住血線虫(かんとんじゅうけつせんちゅう)という寄生虫の中間宿主となることが知られており、保健衛生上も重要な動物です。蔓延を防止するために未発生地域への持ち出しは法律で規制されています。

沖縄本島において本種は、3月から活動を開始し、11月にかけて農作物への加害、交尾、産卵等が観察されます。沖縄本島における本種の寿命は4～5年と考えられています。

主な寄主植物は野菜類、腐敗した果実など極めて雑食性。産卵は、5～11月にかけて数回行い、50～150卵を枯れ葉の下や土中3～5cmにかためて産みます。

### 防除方法について

アフリカマイマイは昼間、鉢底やブロックなどに隠れているのでそれらを見つけ、また卵塊があれば取り除きます。夜行性なので夜間、植物を食害していないか観察し、見つけしだい箸・チリバサミ等でつまんで取り除きましょう。**(素手で掴まない)** 薬剤ではナメトックスやマイマイペレットなどの誘殺剤を(特に活動が盛んになる雨上がりの夕方などに)植物の周りに(直物にはかけず、土壤に撒く)パラパラと撒いておくと効果的です。

薬剤については農協、ホームセンター等で販売されています。